



—東地中海地域ニュース—

中東和平：直接交渉に向けた動向

(2日付ハアレッツ紙)

2日付イスラエルのハアレッツ紙は、イスラエル・パレスチナ直接交渉の開始に向けた動向について報じた。概要は以下の通り。

1. 米国は、直接交渉開始の可能性を探ることを目的として、イスラエル及びパレスチナの代表が同席する三者会談の実現に向けて調整している。同会談には、ミッチェル米中東和平担当特使、モルホ・イスラエル首相特使（交渉担当）及びエラカート PL0 交渉局長が出席する模様で、実現すれば、ネタニヤフ政権誕生後初めて行われる重要な直接対話となる。
2. ハアレッツ紙の取材によれば、同三者会談の開催を提案したのはパレスチナ自治政府で、イスラエルが同会談の開催に合意した場合、早ければ来週（9日からの週）にも実現する模様。米国は同会談には反対しないことを表明している。パレスチナ側は、同会談において直接交渉に向けた TOR、マンデート及びアジェンダについて協議し、米国に対して直接交渉に向けた進展状況を提示したい意向。
3. 1日、ネタニヤフ首相はリクード党の閣僚を前に、8月中頃にも直接交渉が開始される可能性がある」と述べた。
4. 1日、カイロで会談したムバラク・エジプト大統領とペレス大統領は、イスラエルとパレスチナが非常に重要な時期に差し掛かっており、両者はこの可能性を無駄にしてはならないと口を揃え直接交渉の開催を支持した。